

## 天の窓が開かれる

[聖書] マタイによる福音書 6章 9～13節

だから、こう祈りなさい。

『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。

御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』

### [1] 祈りについての悩み

「祈り」ということについて、少し違和感と言いますか、馴染みにくさ、あるいはひげ目・劣等感のようなものを持つ方は少なくないと思います。私自身そうなのです。思わず「神様！」祈る時はまだいいのです。けれども人の前でとか、さあ、祈りの時間を持つとする時に、言葉よりも心の方が置いてきぼりになってしまうような変な感じとか、この時はうまく祈れたとかうまく祈れなかったとか、祈りを自己評価してしまう自分があることがあり、何かこれは神様と本当に向かい合っているのかなあと感じてしまうことが、私自身はよくあります。

私は、逆説的な言い方になるかもしれませんが、そのような祈りについての悩みとか、すっきりしない思いというのは、意外と大事なのではないかなと思います。と言うのは、今日のこの聖書箇所の前で、イエス様は、形式的な祈りというものによくよく注意しなさいと言っていると思います。イエス様はいかにも立派そうな祈りを評価せず、それは人に見せる祈りになっていると戒められます。そうではなく、あなたはむしろ“隠れて”神様との対話の中に生きなさい、と勧められると思います。つまり、誰も評価・評定しない祈りです。(自分自身からもです)。神様と真向かう時に、本当に私たちに耳をそばだてて下さる神様に、人の目や思いを気にしないで祈ることが出来たらいいと思いますね。

### [2] 「主の祈り」とは

祈りというのは一面、神様との一対一のとても個人的な関わりですね。しかし、

その「祈り」というものはまた、教えられる必要もあるのだと思います。私たちは「祈り」の中でも独りよがりになりやすいと思います。そして、その空しさも解って来る。ルカによる福音書の方を見ても、イエス様の弟子たちの方から「私たちにも祈りを教えて下さい」（11:2）と頼んだと書いてあります。彼らがそれ迄祈らなかった訳ではないでしょう。けれどもイエス様の祈りの姿に、自分達に無いものを感じたのだと思います。そこで教えられたのが今日のマタイ6:9以下の祈りの言葉です。通常「主の祈り」と呼ばれている祈りです。

この「主の祈り」は、この福音書が書かれた時代の教会で既に規則的に祈られていたと言われています。自分の部屋に入って独りで祈っても勿論良いのですが、教会はこの祈りを**共同体の祈り**として最初の時代から重んじてきました。その一つの大きな理由が、「**天におられる私たちの父よ**」とあるように、「**我ら・私たち**」という複数で祈られる祈りだからです。そしてこの「**我ら**」というのが、「主の祈り」の中で、とても重要な部分です。

ヘルムート・ティーリケという著名な神学者が「主の祈り」の説教をしたものが本になっています。第二次世界大戦の最中から、敗戦直後のドイツでの説教です。戦争中は爆撃を逃れて病院の中で礼拝を捧げたり、焼けた教会堂の中で礼拝を捧げ、この「主の祈り」についての連続説教をしたそうです。その中でティーリケはこんなことを語っています。—「**我らの父よ**」と私たちは祈るが、「**我ら**」というのは、例えば自分たちの頭上に爆弾を落とすような敵も含め「**我らの父よ**」と祈ることなのだ」と言います。ティーリケは、私たちが「**天におられる私たちの父よ**」と祈る時、この、主が教えて下さった祈りは、**世界を包んでいるのだ**と言うのです。私たちはすぐ「**我ら**」を狭く考えてしまうけれども、「主の祈り」は、世界を一つにしようとしているのです。ここには自分の団体や自分の国の利益だけを考えるような偏狭さはなく、むしろそのような、人の思いを突破しています。私たちが加盟する日本バプテスト連盟の世界宣教もこの祈りの中でされている訳です。何故カンボジアやインドネシアやシンガポール、又ルワンダに行くのですか？—**天の父は、「私の」ではなく、「私たちの父」だからです。**

私は、今回準備をさせていただく中で本当にそのように思ったのですが、この「主の祈り」は、「**さあ、お前たちも私について来なさい**」という、その**主イエスの呼びかけ・招き**だと思うのです。人間が当たり前に、自然に思いついた祈りではないのです。ですから、この祈りは「**御国**」という「**神様の真実の御支配**」の実現を祈ります。「**御心**」がなることを祈ります。これはまずイエス様ご自身が祈られた祈りです。そしてそれは、「**こうあったらいいなあ**」というような幻想やただ心を

落ち着かせるような祈りではありません。この祈りは、イエス・キリスト・神の御子が血を流して十字架の上で成し遂げて下さった贖いと、主のよみがえりによって確かなものとされた神様の勝利があるからこそ、決して空しくならないのです。私たちは、お互いに罪人ですよね。けれども、罪人のままこの祈りを祈ることを主は求めて下さっています。「祈らないことは罪だ」と言った人がいますけれども（フォーサイス）、それは、主の赦しを受け入れない、拒絶するほど私たちは高慢になってはならないということなのでしょう。私たちはこの祈りを祈った後、「本当にそうです。アーメン」と言っているのです！

### [3] 「アーメン」である方の真実によって

平野克己師（日本基督教団・代田教会牧師）は、『主の祈り—イエスと歩む旅』（日本キリスト教団出版局）の中で、この「主の祈り」の最後の、「アーメン」の部分だけでもスポットを当てて語っておられました。この「アーメン」によって私たちは支えられるというのですね。

平野先生はまず「ハイデルベルク信仰問答」の問いと答えを引用されます。

問い。「アーメン」という言葉は何を意味しますか？

答え。「アーメン」とは、「真実であり、確実である、ということです。なぜなら、これらのことを神に願い求めていることは、私が心の中で感じているよりはるかに確実に、私の祈りは、この方に聞かれているからです。

平野先生はこの問答を受けて言われます。—「何と真実で慰めに満ちた言葉でしょう！ 私たちが主の祈りを祈る時、祈りの確信があるとは限りません。けれども、私たちが神に願い求めていることは、私が心の中で感じているよりもはるかに確実に、神に聞き入れられているのです。それはこの祈りが、**私の祈りではなく、主の祈りであるから**です。祈りが神に聞き入れられるのは、私たちの側に揺るがない真実と確信があるからではありません。**主イエスが「アーメン」そのもの、真実で確実な方であるから**です。祈りを支えるのは、私たちの確信でも、私たちの熱心でもなく、主イエス・キリストの真実なのです」と。本当にそうですね。

### [4] 主が「天の窓」を開いて下さったから

今日は、「主われを愛す」という讃美歌をこの後一緒に歌いたいです。これはアドベント（待降節）の讃美歌ではありません。なのにどうして？と思われると思いますが、この歌詞は本当に、主イエス様が来て下さったことこの恵みの大きさを歌っていると思うのですね。

この歌の歌詞の1番はすぐに出てくるでしょうけれども、2番、3番の歌詞はすぐに出てくるでしょうか？ こういう歌詞ですね。

2番は「わが罪のため 栄えを捨てて 天より降り 十字架につけり、

3番は、「みくにの門(かど)を開きて われを 招き給えり 勇みてのぼらん」。

イエス様が本当に天から降って下さった！ それがクリスマス。今はそれを待つ季節です。イエス様が天から降り、十字架に身代わりにかかって下さったことによって、御国への門を開いて下さった。それを歌っているのですね。私たちが神様の所に昇っていくのではなく、神様が天の座をお捨てになって、見すばらしいお姿で来て下さった。私たちと一緒に生きるために。それは、私たちに、この地上にありながら、「天の窓」・「祈りの窓」を開いて下さったことなのだなぁ、と思います。上を見上げてもどんよりした曇り空で、光が差してこない、そのような人生を歩まされることが多い私たちです。でもそこで「神様、助けて下さい」と祈って良いし、「天にましますわれらの父よ」と、あなた方は、私のついて祈って来なさいと招かれているのですね。「主の祈り」を祈る時、私たちの頭上は曇り空でも、天の窓はその一点から既に開いていることを信じてよいのではないのでしょうか。たとえ独りで祈っていても、そこには教会の仲間の存在もあることを覚えたいと思いますし、もう既に天に召された多くの先人たちも、一緒に祈って下さっていると信じてよい(=聖徒の交わり)と思いますし、何より、私たちには、主イエス・キリストというお方が、私と共におられるのだと、そのことをこのアドベントの時、もう一度受け止め直し、私たち自身のこともそうですが、この世界のこと、周りのことにも思いを馳せながら祈り、過ごして行きたいと思います。

お祈り致します。

イエス・キリストの父なる神様、御名を讃えます！

今日このようにして共に集められ、あなたを「私たちの天の父よ」と呼ぶことが出来ますことを感謝いたします。その道を、その天につながる窓をイエス様ご自身が道となって作って下さったことを感謝いたします。この道を通して、いつもあなたと親しく交わることが出来ますよう私たちを励まし、お助け下さい。

「我弱くとも、主は強ければ、私には恐れはない」と歌う讃美歌を「アーメン」と歌い、この一週間、またあなたを待ち望むアドベントのこの時を共に過ごさせてください。世界祈祷週間も始まりました。私たちが祈りと捧げものを持って、共にその主の業に参加することが出来ますようにして下さい。

主イエス・キリストのお名前によってお祈り致します。アーメン。